

報告書「第4回 阪大院生 知の横断」

概要

日時: 2018年11月3日(土) 13:50~17:30

対象: 中高生以上(中高生、学部生、院生、一般の方)

目的: 異分野交流、アウトリーチ活動

後援: インタラクティブ物質科学・カデットプログラム、ヒューマンウェアイノベーション博士課程プログラム、高等教育・入試研究開発センター

宣伝方法

高校への宣伝

- ポスター・プログラム各40部を関西圏の中学・高校62校、学習塾13校に送付
- 高大接続サポーター、SEEDS、探求学習指導セミナー等の関係者へのメール送付

学内での宣伝

- 学内でのポスター掲示
- O+PASへの広告掲示
- 大学のHPやSNSでの宣伝

プログラム

開会の言葉 (13:50 ~ 14:00)

大学院生トーク (14:00 ~ 16:40)

- 三田真志郎 (生命機能研究科D1・ヒューマンウェア)
「脳の認知モデルが変える音楽の未来像」
- 林貴哉 (言語文化研究科D1・未来共生)
「”人”から考える言語学習 ~ 経験を聞くこと / 書くことを通して ~」
- 大西真駿 (生命機能研究科D2・生体統御)
「老化のカギを握るミトコンドリアとオートファジー」

フリーディスカッション (16:40 ~ 17:30)

主催した学生から

大学院生に異分野交流の機会を提供すること、中高生に将来の指針を考えるきっかけとしてもらうことを目的として、「阪大院生 知の横断」を開催しました。本会では、「脳と音楽」「言語学」「生物学」をテーマとした大学院生の講演が行われました。講演者には中高生でもわかりやすいように、専門分野の魅力を伝えてもらいました。参加者はのべ57名(うち高校生35名)であり、講演者と活発な議論が行われました。大学生や一般の参加者だけでなく高校生からも積極的に質問がなされていたことが印象的でした。

参加者からは「色々な分野の話が気軽に聞けて面白かった」「講演者と交流ができてよかった」といった評価をいただき、異分野交流やアウトリーチといった目標は十分に達成できたと考えています。

また今回は、学部生の実行委員にも仕事を任せ、今の中心的な委員が卒業したあとも、本会を継続できるようにすることを意識して運営を進めました。10年、20年と継続的に開催する中で、「知の横断」を、異分野の交流を促しつつ阪大生が自身の研究を社会に発信するための場に成長させていければと考えています。



三田さんの講演の様子



林さんの講演の様子

[実行委員]

島谷二郎 (基礎工D2)

横井雅彦 (理学D2)

岩切秀一 (理学D1)

濱地威明 (基礎工M2)

米田友花 (工学M2)

佐伯壮一郎 (医学B3)

山本悠 (文学B2)

(文責: 島谷)